

県内最大規模のメガソーラー建設計画に対する条例制定を要望
～曼殊沙華 500 万本の群生地 巾着田近郊の環境を破壊する計画の中止を～

大規模土砂災害、環境破壊が懸念される日高市高麗本郷地区のメガソーラー建設計画の中止を求め、日高市へ条例制定の要望を提出します。



日本最大級 500 万本の曼殊沙華群生地として有名な巾着田の近郊、日高市高麗本郷地区の山林に、東京ドーム 3 個分、約 15 ヘクタールに及ぶメガソーラー施設の建設が計画されています。

この計画に対し、近隣住民有志を中心に構成する「高麗本郷メガソーラー問題を考える会」は、①皆

伐による土砂災害発生の危険性、②麓を流れる高麗川の水質悪化、③県レッドデータブック指定の絶滅危惧種の生息域破壊、④同市の標語でもある“遠足の聖地”の景観破壊等を懸念し、反対を表明してきました。

既に、市内外の住民から約 3 千件に及ぶ署名を集め、6月6日には埼玉県農林部、環境部に対して要望書を提出する等の活動を展開してきましたが、日高市が定めるガイドラインには、法的拘束力はありません。

同計画に対し、実効性のある条例の設定を求める要望を提出します。



<今後の予定>

- ・ 6月13日(木) 14:15~14:30 日高市長へ要望書提出
- ・ 6月20日(木) 日高市議会において条例制定の進捗を問う一般質問(松尾万葉香 議員)